

火曜会通信

第94号

発行日：令和4年8月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市まち資源室文化振興課内

文化財を保護・顕彰し、次世代へ受け継ぐ

学習支援班新設の狙い

会長 末次 弘幸

6月14日開催の臨時総会で審議した「学習支援班新設案」は、全会一致で可決された。新班は2022年3月解散・廃止の「どんぐり座」と「ロマン体験学習支援班」の活動・趣旨を継承し、小中学生等若年層（以下「ジュニア層」）対象の活動を企画・推進する母体となることを目指している。

紙芝居劇団・
どんぐり座は、
伊丹の民話な
どの無形文化
財を市民に紹
介してきたが、
座員の高齢



小学校での紙芝居公演

化、座員数不足また道具運搬の担い手欠如等々の理由により、解散を余儀なくされた。活動の支障となった問題・課題を克服しつつ、民話紹介を新班活動の柱の一つに据えて、会全体として、活動していきたい。



担い手不足と道具運搬問題をどう克服していくのか。その一方策が、紙芝居のデジタル化である。紙芝居の画像を1枚ずつ写真撮影のうえ、パワーポイント

資料として再作成し、USBに収録。重たい紙芝居用道具運搬の必要はなくなり、少人数での公演も可能となる。当面は、民話紹介の主な対象をジュニア層としたい。

ロマン体験学習支援班は、伊丹市主催の「小学生を対象に物づくり体験を通して昔の人々の生活を学ぶ講座」へ市からの委託により、毎月会員3名を派遣してきたが、市の委託停止により、班は廃止となり、文化財ボランティアの会のジュニア層を対象とする活動がなくなった。会の活動は、どもすると対象が中高年層に偏りがちだが、文化財を保護・顕彰し、次世代へ受け継ぐためには、ジュニア層への文化財啓蒙活動が必要であると考える。

ジュニア層を対象とする活動を企画・推進する母体である学習支援班は、「民話紹介」と「ものづくり体験支援」を中心に活動していきたい。将来の課題としては、ジュニア層を対象とする



物づくり学習の
予行演習
(ペンケース制作)

【ボランティアガイドの案内】 伊丹市内に散在する文化財（史跡）のガイドを

ご希望される方は伊丹市文化振興課 文化財担当まで 電話（☎：072-784-8090）

または文化財ボランティアの会にメール（ibunbora@yahoo.co.jp）でお申込みください。

活動の範囲を下記①～④などへ広げていった
い、と考えている。

- ①ジュニア層を対象とした市民ガイドの企画・実
施 *史跡ガイド班との連携。
- ②有岡城跡など史跡のジュニア層との共同清

掃活動。

- ③夏休み自由研究支援
- ④出前授業(伊丹の歴史・文化財や伊丹ゆかり
の歴史上の偉人紹介など)

市民ガイド(令和4年度 第1回ガイドブック片手に伊丹を歩こう) 『昆陽池から昆陽寺まで行基の足跡をたどる』



昆陽池からガイドスタート

幼児が人生初の大チャレンジに臨む「初めての○○」は可愛いものですが、この歳になつても「初めての」はドキドキします。(動悸ではありません)

数ヶ月前に末次会長から、市民ガイド＜昆陽池から昆陽寺まで行基の足跡をたどる＞のリーダー役を仰せつかりました。「やってみなはれ」(息合は松下幸之助か鳥井信治郎)これに私が「へえ」と、つい、答えてしまったのが私の初チャレンジの始まりでした。

入会3年とは言え、この2年間コロナ禍で実践経験を積めなかつた私に「リーダー」とは、順路と各所で語るべき内容はすぐ浮かびましたが、具体的にチームを如何に組成するのか、資料の校正から印刷までの手順はどうやるのか、懸

命に考えました。

チーム作りの参考になったのは、昨年11月市民ガイド(杜若寺方面)でのYさんの手



法です。小さな集会の仲間一人一人に参加を

呼びかけておられました。

組成を悩む間に、末次会長から「誰も集まらないなら二人でやれば良い」と言われ、腹を括りました。

資料作りの参考は、昨年2月の市民ガイドの資料で、これをベースに新たにオープンした市立伊丹ミュージアムの事も織り込みました。

チーム編成後5月31日にコース各所の時間配分を確認しながらコースをフルに下見しました。この日、私自身にとっての新発見は、正覚院での夏目甕麿の墓碑横の石碑に刻まれた文でした。

下見経験を活かし、6月18日の本番では「たまたま石」のいわれを山本さんが真顔で



正覚院でガイド

説明され、人々の笑いを誘いました。

本番当日は気温25度、湿度70%、曇天。梅雨時には恵まれました。熱中症対策用にドリンク休憩2回、各5分程度を要しましたが、必要な時間でした。

参加者は伊丹市民が殆どでしたが、「灯台もと暗しで知らないことが多かった」との声や、奈良や尼崎から来られた方は「伊丹市にも文化財は多いんですね」とも。

チームの皆様、全く可愛げのない「初めてのリーダー」にお力添え頂き、有難うございました。

(玉浦 記)

屋外研修報告(令和4年5月24日)

「灘魚崎郷」～26期生を中心複数人で報告～

浜福鶴吟醸工房

浜福鶴の名物杜氏「米治」さんにお会ってほしい。これがこの屋外研修を計画するきっかけでした。自分の名のついた「米治」という銘柄もある杜氏さんです。

5月24日、その米治さんが私たちを出迎えてくれ、楽しい説明の後、ご自分の名前のついた「米治」のお酒の試飲もさせてくださいました。

22日に特別販売された「寅年米治」もゲットして、幸せな一つ目の蔵の見学と試飲を終えました。さて次の蔵も楽しみです。

(高木 記)

菊正宗酒造記念館

1659年(万治2年)創業時の本宅屋敷酒蔵を移築して、国の重要有形民俗文化財の酒造資料566点などを有する酒造記念館として1960年開業。阪神大震災にて全壊となりましたが、その多くが無事もしくは修復可能な状態で発見されたことから、1999年再開できました。伝統的な酒蔵の建築様式を模して、屋根は本瓦葺、外壁や辻塀は焼杉板張りとなっており、倒壊した旧館の柱や梁など部材の一部が使われています。

館の外庭に水車があり、精米小屋が併設されています。六甲山系の急流を利用してたくさん



の水車が設置され、当初は幕府が油絞り株を発行し胡麻・菜種の油を遠くは江戸まで「灘目の搾り油」として運ばれていたそうです。「灘目のそうめん」

も江戸時代終りには水車製粉で上質に大量生産されて、今日の「播州そうめん揖保乃糸」に引き継がれています。

文化文政期頃、灘五郷の酒造家は精米利用に着目し、大量・高精白の酒米を得ることができました。これが他産地より灘酒の高評価につながったと言えるでしょう。最盛期には270の水車が4700の臼を搗いていたそうです。

(村 記)

白鶴酒造資料館



真夏を思わせるような暑さの中、三つ目の研修場所「白鶴酒造資料館」へ到着。正面入り口の周りには、今を盛りとばかりのツツジの饗宴、上を見上げると立派なしめ縄とすぎ玉、そして静かにひびくしおどしのお出迎え。

伝統と威厳を感じさせる酒蔵に入ると、昔の酒造りの工程に従って蔵人が作業する姿を人形で再現しており、実際に使った道具もたくさん展示していました。一番奥には映写ホールが設置。酒造り白鶴酒造の歴史がワイドスクリーンで上映されました。お決まりに試飲もありましたが、ここでは「甘酒ソフト」に舌鼓、他の参加の方々も“〆(しめ)は甘酒ソフト？！”が多かったようでした。昼間から大っぴらにお酒が飲める美味しく楽しく、そして学びの多い実りある研修会でした。

(本郷 記)

ガイドうらばなし 「ガイドのささやかな喜びとは」

2022年5月は、時ならぬガイドラッシュが起きた。5団体／193名を伊丹市にお迎えした。2週連続で大阪府北部コミュニティカレッジ(ONCC)からガイド依頼を受けたほか、2日連続でガイドしたことが2回あった。そうした中でも、ガイドを担当することに小さな喜びを感じる出来事があった。

5月12日ONCCの40名を案内して、猪名野神社から伊丹廃寺跡まで歩いた。歩き始めたところで、雨が降り始めた。猪名野神社で、本殿西側にある鬼貫句碑（「鳥は未だ口もほどけず初桜」）の前に立ち、句について説明。「鬼貫は咲き始めた桜を眺めつつ、耳では鶯のさえずりを聞いている。ただ、鶯は鳴き始めたばかりで、まだ上手には鳴けない状況を詠んでいるのですよ」。すると、本殿の東にある楠の梢から鶯が鳴き始めた。

「口もほどけず」ではなく、滑らかなさえずりだった。市外からのお客さまを歓迎し、ガイド担当者にエールを送っているかのようだった。神社を離れ、伊丹緑道を歩いている時まで、鶯の声は追いかけてきた。鬼貫句碑の前で、鶯のさえ



ずりを聞くのは初めてのことだった。「ちゃんと鳴けますよ、鬼貫さん」と、訴えていたのだろうか。

5月18日大阪府高齢者大学校(48名)からの依頼で、有岡城跡周辺を案内。依頼団体の皆さまは感じの良い人が多く、説明を熱心に聴いてくれた。こういう人たちとの出会い触れ合いがあるので、ガイドは1回やると、やみつきになるのである。

この団体からの申し込みは、1か月前を過ぎていた。ガイドを受け付けたことに感謝し、参加者にカンパをしてくれたようだ。案内が終わると、代表者からご祝儀袋を渡された。

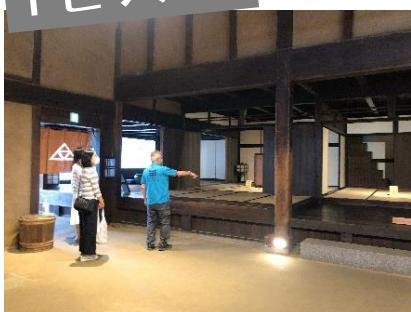
「我々はボランティアグループですから」と、辞退したのではあるが、「是非に」とのこと、お受けした。

翌日袋を開けて、驚いた。何と千円札が束になって5枚もぞろぞろと出て来た。加えて笑い文字で書かれてカードが11枚添えてあった。謝礼は会に納入り、カードはガイド担当者5名に手渡した。

会員諸氏には、ガイドを担当すると、こういう楽しい出会い触れ合いがあり、時には鶯からもエールが届くことを知っていたとき、積極的にガイドの現場に出て、このささやかな喜びを共有して欲しいと思う。(末次 記)



トピックス



旧岡田家住宅 当番制ガイドの再開

「市立伊丹ミュージアム」のグランドオープンに伴い、旧岡田家住宅での当番制ガイドが再開されました。コロナ禍と改修工事の影響で、2年3か月ぶりの常駐ガイドとなりました。4月～6月は2名体制で実施され、当番ガイドを初めて経験する新入会員たちもベテラン会員とともに、日本遺産になった旧岡田家住宅の魅力を訪れた見学者に伝えていました。

後日、ガイドに参加した会員に対してアンケートが実施され、見学者からの質問やガイド経験者の意見、感想が多く寄せられました。アンケート結果は今後の当番ガイドに活用できるよう、会員に配布されますので、参考にしてください。

(編集担当 記)

屋外研修の記録

◆4月21日(木) 西宮市鳴尾地区 参加5名

当日はあいにくの雨模様の中、阪神電鉄「鳴尾・武庫川女子大前」駅を出発して住宅街に点在する史跡を巡りました。

もともと鳴尾は白砂青松の景勝地であり、鳴尾の一本松として歌にも詠まれています。しかし鳴尾地区を流れる武庫川は上流から六甲の土砂が流れ込み、流路が安定しない暴れ川となって、洪水旱魃を繰り返してきました。16世紀末の旱魃時に鳴尾村と隣村の瓦林村との水争いで、二村合わせて数十名が成敗されました。この犠牲のもとに鳴尾村は水利権が保証されるようになりました。当地では「鳴尾水諭義民」として祀られています。写真は昭和16年に紀元 2600 年事業の一環として建立されたものです。

最後に訪れた岡太(おかた)神社は鳴尾の最古の神社で、鬱蒼とした古木が繁っています。境内には尼崎藩領界碑が置かれています。鳴尾地区は幕府領・旗本領・尼崎藩領が混在していたので藩領を明示するために他領との境界に建てられていました。

◆5月20日(金) 山田・寺本南部 参加8名

これまで閼伽井より南側の山田地区については殆ど訪ねたことがありません。今回は地区の旧村部に足を運び、村の歴史・民俗を探りました。尼宝線沿いのイズミヤ前に集合して、師直塚寺本1丁目道標、高皇產靈神社と進みました。大きな邸宅が並ぶ旧村部は道幅が狭く、不規則な線形で迷路のようです。その一画に伊丹市の都市景観形成建築物に指定されている吉田邸があります。市内では珍しい重厚な石造建築物です。地蔵の祠があり、愛宕さん・青面金剛が祀られています。また「御頭弓射手場の碑」があります。御頭(おとう)は「講」の一つで、大きな弓を射る弓神事が行われていました。これらはかつての地域の信仰、行事などを今に伝えています。最後に昆陽井が昆陽、御願塚、南野、寺本の4地区に用水を分配する四ツ治を見学しました。

◆6月16日(木) 北村地区 参加9名

ガイドでよく利用する緑道～伊丹廃寺コースに加え、それ以外の史跡を探して訪れました。和泉式部の墓の道路向かい、および辻の碑の敷地には以前神社があり、両神社は大正4年に臂岡天満宮に合祀され、これを記念する石碑がそれぞれに建てられています。産業道路が駄六川を渡り北進する北園2丁目辺りには、昭和61年頃の調査で発掘された瓦から北村廃寺の存在が確認されました。ただし現地には案内板等はありません。171号線を越え加茂井を参拝用の橋で渡り、急勾配の階段を上ったところが稻荷神社です。樹木が鬱蒼と茂り不気味な感じがします。

最後は伊丹廃寺跡の南西側近くの猿ヶ山城跡とされる地点を訪ねました。堀跡が検出されました。詳しい内容は不明で今後の調査が待たれます。現地の案内板はありません。



鳴尾の一本松



北郷公園 義民碑



愛宕神社



稻荷神社

※研修サロン班 5月～7月の活動記録は8pに掲載しています。

分科会 活動紹介

当会では、文化財のボランティアガイド・清掃などの活動の以外に、分科会活動を通じて会員の幅広い知識向上と親睦を行っています。

令和4年5月の定例会で、二つの分科会(古文書・パソコン会)の紹介が行われました。それぞれの活動概要は下記のとおりです。

■古文書の会

博物館や資料館の展示文書、先祖代々伝わる古文書など、読んでみたいと思ったことはありませんか？古文書はその時代に生きた人々が書いたり読んだりした文章を通じて、その時代の息吹を体感することができます。古文書の会ではくずし文字の読み方を学びながら、当時の人々の生活に触れることを楽しんでいます。

●例会日・場所:毎月第2水曜日、スワンホールの会議室



■歴史会

伊丹の歴史だけに限らず、日本史上に起こった出来事や活躍した人物にスポットを当てて、日本の歴史を学習しています。課題を持ち寄り、みんなで資料を出し合い、知識を高めています。今年は昭和史を学んでいます。興味がある方は参加してください。

●例会日・場所:毎月第3月曜日、いたみホールの会議室



■パソコンの会

ワード、エクセル、パワーポイントなど、パソコンソフトの基本的な知識をみんなで学んでいます。ガイド資料や個人の研究資料等を作る際の疑問点などを持ち寄って、それらを解決しながらスキルアップを目指しています。最近はスマホやリモート(zoom)の使い方も。パソコンの疑問点があれば、一緒に解決しましょう。

●例会日・場所:毎月第2、第4木曜日、ラスタホールの多目的室3



※各分科会・いたみ民話会は会員なら誰でも参加可能です。参加される場合は事前に各リーダーへご連絡ください。

学習支援班の活動

伊丹の民話・昔話などの無形文化財を紹介する紙芝居公演や、物づくり体験を通じて昔の人々の生活を学ぶ講座など、次世代(ジュニア層)へ受け継ぐための文化財啓蒙活動をしていきます。新しい組織で、まだ手探りの船出ですが、一緒に楽しく活動していただくメンバーを募集しています。例会は毎月第3火曜日にスワンホールで行っています。どしどしご参加ください。

【初公演】

7月28日(木)「みんなで聞こう！伊丹の民話」と題して、ラスタホールで初の公演が開催されました。小学生対象に、プロジェクターを使ってのデジタル紙芝居を3話披露した後、使用済みのハガキと布を使ったペンケース創作を指導いたしました。



リレーエッセイ②

小学校・猪名川・飛行場にまつわる思い出

松田孝雄

私が子供時代を過したのは尼崎市の園田地区、競馬場より 1km ほど南東の猪名川近くである。園田地区は猪名川が藻川と分流、それぞれ神崎川に合流して形成する中洲にある。

もとは川辺郡園田村であったが戦後尼崎市と合併統合した。

昭和 30 年代の猪名川の堤防は竹藪に覆われた淋しい場所であった。堤防に隣接して当時はすでに使用していなかった村墓の火葬場があり、子供にとって怖い場所だった。その後昭和 40 年中頃から河川の付替工事が始まり、かつての竹藪はなくなつて自然公園が設けられ、様子は一変した。

小学校

私は昭和 28 年に尼崎の市立小学校に入学した。当時の 1 学級の児童数は 56、7 人程度で、60 人になることはなかった。校舎はすべて木造で、ところどころ床板が破損して穴が開いたような、とくに耐用年数を過ぎた戦前の老朽校舎も一部使用していた。それでも教室の数が不足しており、私の入学した次の学年、いわゆる団塊の世代から、早行き遅行きの二部授業を実施していた。

暖房、冷房設備など全く無縁であった。ただし職員室だけはストーブが焚かれ、タバコの煙が充満して臭く、職員室に入るのが嫌だった。

秋の祭りの日は祭り地区の子供の授業は午前中だけで、午後は早引きする習慣があった。早引きする子供が多い地区の祭りの日は午後の授業は休校状態であった。

焼夷弾

小学一年の頃(昭和 28 年)、六年生の二人と連れ立って堤防を上流側に向って歩いたときのことである。竹藪がきれいに伐採されている場所で、仲間の一人が堤防斜面に金属製の筒が突き刺さっているのを発見した。これを「六角焼夷弾」と名付けたことを覚えている。戦後間もない当時は、小学生が焼夷弾を知っていたのである。地面から出ている部分を三人が交代でこじて、やつとのことで地面から抜き取り、砲丸投げのように地面に放り投げて爆発しないことを確かめた。意気揚々戦利品として持ち帰り、秘密の場所に隠すことにした。がらんどうの筒にしては結構重かったことを記憶している。その後これをどうしたのか覚えていない。



舟の運行?

猪名川は園田地区で藻川と分岐するので流量は少なくなる。夏の渴水期になると子供の膝の下位まで水位が下がり、急な流れの川原を裸足になって遊んだ。年によっては干上がって水流が殆どなくなることもあった。こんな河川の状態から猪名川に舟を浮かべて使用することなど想像できなかった。当時、舟および水運に関する施設の痕跡さえ見たことはない。自宅近くの神社は「船詰神社」といつて、いかにも水運と関係ありそうな名称であることが不思議だった。しかし江戸時代後半には猪名川通船として下河原、池田と下流の戸ノ内、神崎の間を運行したと記されている。川底を掘り下げて吃水の浅い平底の高瀬舟が用いられたようで、それでも夏の渴水期には水深を確保出来ないので運休したのだろう。

高瀬舟の舟板が椎堂(しどう・地名)の私邸の蔵板として残り、艤(ろ)が富田(とうだ・地名)の私邸に残っていると郷土史に記載されているが、一度見たいものである。

台風・プール事情・水難事故

昭和 28 年頃は社会資本の整備は依然として遅れた状態のままであった。幹線道路さえ未舗装

で晴天が続ければ砂塵が舞い、雨が降れば水溜まりで泥水を跳ねていた。台風大雨などにより河川は氾濫、堤防の決壊など大きな被害が発生した。同年の台風 13 号で伊丹市内の軍行橋、桑津橋が流失した。園田では藻川の中園橋が流失し、様子を見に行つたことを覚えている。

昭和 30 年頃は尼崎市の小学校にはプールはなかった。老朽校舎の建て替えさえ進まず、プールを設置する財政的な余裕はなかったのだろう。高学年の水泳教室は塚口にある私学のプールを借りて実施していた。各校にプールが設置されるのは 30 年代後半になってからである。当時は夏期期間になると水質は大丈夫だったのか、藻川に遊泳区域が指定され、監視員が付いて事故防止に備えていた。大勢の子供でにぎわっていたが、遊泳指定範囲外でも河川で水遊びをすることが多く、子供の水難事故が絶えなかった。

懐かしの飛行機

飛行機を見に飛行場まで歩いていったことがある。猪名川を越えた北側は飛行場に至るまですべて田畠だった。昭和 30 年頃、飛行場は米軍の管理下にあり、柵には鉄条網が巡らされていた。大阪方面から飛行場へ通ずる府道を米軍のジープが砂埃を舞いあげて走行していた。

飛んでいる飛行機は殆ど米軍機であり、民間航空があることはあったが、双発のプロペラ旅客機をたまに見かける程度だった。一番よく伊丹の空を飛んでいたのは C-119 という双胴式の米軍輸送機である。ときたま小型ジェット機(戦闘機)が単機飛来し、着陸のためにらせん状に降下してくることがあった。昭和 33 年に空港は日本に返還されたが、国内線旅客機を見ることは少なかった。



懐かしい米軍の双胴輸送機

活動記録 (5月～7月)

【定例会】・5/10 (火) ・6/14 (火) ・7/12 (火)

【案内ガイド】

・5/12 (土) B コース (コミュニティカレッジ 豊中市) ・5/13 (金) 旧岡田家住宅 (シニアゼミナール 宝塚市) ・5/18 (水) A コース (高齢者大学 大阪市) ・5/19 (木) D コース (コミュニティカレッジ 豊中市) ・5/26 (木) E コース (郷土史研究会 尼崎市) ・6/4 (土) B・E・F コース抜粋 (ふれあいウォーク 神戸市) ・6/18 (土) 令和 4 年度第 1 回市民ガイド・7/14 (木) A コース (ネイチャークラブ 豊中市) ・7/16 (土) A コース (シルバーカレッジ 神戸市)

【研修サロン班】

(勉強会) 5/6 (金) 「旧村：山田・寺本」、6/2 (木) 「旧村：北村」、7/7 (木) 「旧村：千僧・大鹿」
(屋外研修) 4 月・6 月は詳細を P5 に記載 7/21 (木) 「旧村：千僧・大鹿」

今後の予定 (8月～10月)

【定例会】・8/9 (火) ・9/13 (火) ・10/11 (火)

【案内ガイド】

・9/17 (土) 第 2 回市民ガイド・10/15 (土) F コース (退職者団体 伊丹市) ・10/22 (土) A コース (同窓会 大阪府) ・10/29 (土) F コース (セカンドライフ協会 神戸市)